

令和3年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光客による区内観光施設等の平均立ち寄り地数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					3.5か所					4.0か所
実績		2.35か所			未実施					

指標名	区内を訪れる観光客数（観光関連施設入込客数及びイベント入込客数）									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					4,500億円/年					4,750億円/年
実績		4,200億円/年			未実施					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
平成29年度に実施した「観光消費額等調査」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症により観光スタイルが変化し、観光客も激減したため、新型コロナウイルスの収束後、観光需要が戻った際に調査を実施し、各指標の目標年度を設定することとした。	H30	132,990
	R1	132,633
	R2	153,932

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	新型コロナウイルス感染症の影響により観光ニーズ等にも変化が生じていると考えられることから、時流の変化を適切に捉えた施策展開を図る必要がある。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
アフターコロナを見据えた観光施策の見直しが必要なため。	
【今後の具体的な方針】	
事業継続性の観点から区費負担によるイベント実施を見直し、地域や民間企業との連携強化を図り、地域主体のイベント等を支援していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
		評価対象年度				
1	地域DMOの推進	14,760	7,058	21,818	9,800,000	改善・見直し
					2,458,695	令和2年度
2	区内循環バス運行等経費	136,316	9,704	146,020	4,500	改善・見直し
					2,698	令和2年度
3	水辺を活用した賑わい創出 事業	2,046	7,058	9,104	195,000	統合や縮小を検討
					0	令和2年度
4	小梅橋船着場管理等事業	0	3,529	3,529	400	改善・見直し
					0	令和2年度
5	地域連携区内回遊促進イベ ントの実施	810	4,411	5,221	3,500	廃止を検討
					275	令和2年度
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事 業 名	地域DMOの推進		1
目 的	地域の日常を観光資源として磨き上げる「地域おこし」や多文化共生社会の推進に向けた取組、広く多様な関係者と連携しながら地域や民間事業者が主体となった取組を推進することで、地域ぐるみで地域の賑わい創出や活性化に繋げる。		主管課・係(担当)
			観光課観光担当
			03-5608-6500
対 象 者	観光客		
根 拠 法 令 関 連 計 画	観光振興プラン		
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	全部委託
			人員体制・委託先
			一般社団法人墨田区観光協会
事 業 内 容	<p>■地域DMOの支援(観光協会への補助)</p> <p>①地域おこし:地域の日常を観光資源として磨き上げる。 ②地域・事業者との連携・協力:宿泊事業者等と情報交換連絡会を開催する。 ③データ収集・分析:宿泊事業者等から観光データを収集し、分析する。 ④エリア情報の集約:区内の飲食店・銭湯・交通等観光情報の集約 ⑤観光情報の発信:イベント情報・マナー情報・エリア情報の発信 ⑥多文化共生事業:外国人観光客と区民の交流を通じた文化の相互理解につながる取組の実施</p> <p>■両国地区DMO支援 東京2020大会へ向け、両国地区活性化のためのワークショップの開催やイベント等の支援</p>		
経 過	開始年度	平成29年度	終了予定
	<p>▼平成29年4月(一社)墨田区観光協会を、観光庁の「日本版DMO制度」に基づく法人として登録するため、組織体制の確立及び計画の策定に係る支援を推進事業として事業開始。 ▼平成30年3月に、都内DMO法人第一号として登録手続きを完了した。(観光庁HP「日本版DMO登録一覧」に平成30年3月30日付けにて掲載) ▼平成31年度に、2020東京大会の会場となる両国地区における地域活性化のためのワークショップを立ち上げた。</p>		
議 会 質 問 の 状 況	<p>平成30年 第1回定例会 日本版DMOの観光庁への登録の進捗状況について 平成30年 第2回定例会 地域DMOの推進事業の進捗状況について 平成30年 決算特別委員会 地域DMOの推進事業費について 平成31年 予算特別委員会 地域DMOの推進事業費について 令和元年 9月定例会 地域DMOの推進事業の進捗状況について 令和2年 3月産業都市委員会 地域DMOの推進事業の進捗状況について</p>		
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 都内の区市町村で地域DMO法人として観光庁に登録された自治体・観光協会はない。		

予算・決算額推移(千円)		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
予算現額(事業費)			15,000	6,000	14,000	16,000	42,750
A.決算額(令和3年度は見込み)			15,000	6,000	12,694	14,760	42,750
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	15,000	6,000	12,694	14,760	42,750
執行率(%)		#DIV/0!	100.0%	100.0%	90.7%	92.3%	100.0%
B.人コスト				4,922	4,369	7,058	
総事業決算額(A+B)		0	15,000	10,922	17,063	21,818	
主な事業費用の説明		地域DMOへの支援(観光協会への補助)として、マーケティング経費・地域との連携経費・プロモーション経費等。					
予算書P(令和3年度)		205		執行実績報告書P(令和2年度)		149	

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	推進協議会・連絡会等の開催				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		8	R5	目標	0	5	6	6
				実績	0	5	1	8
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6	6	7	8		
	実績	0						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域ぐるみで地域の賑わい創出や活性化に繋げるため、地域や民間事業者等広く多様な関係者との活発な意見交換が求められる。なお、平成30年度からは、推進協議会だけではなく、宿泊事業者等区内事業者との情報交換連絡会、ワーキンググループやワークショップ等連携・協力のための会議の開催回数を指標にしている。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	区内を訪れる観光客数 (観光関連施設入込客数及びイベント入客数)				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
10,000,000		R7	目標	9,100,000	9,300,000	9,500,000	9,700,000	
			実績	9,175,663	8,142,160	8,211,870	7,468,410	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		9,800,000	9,800,000	9,850,000	9,900,000	9,950,000	10,000,000	
実績	2,458,695							
指標の選定理由及び目標値の理由								
墨田区基本計画にある「すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる」という施策の達成をはかる指標として掲げられているため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が激減する中で、アフターコロナを見据えて、DMOが主体となり、墨田区、事業者、地域と連携・協力しながら観光需要回復後へ向けた準備を進めるとともに、withコロナの中で新しい観光スタイルを探る。また、引き続き、地域の日常を地域の理解・協力を得ながら掘り起こし、観光資源の磨き上げを行っていく。

課題・問題点
地域が考える「観光まちおこしに関する地域の課題」を洗い出し、区民・事業者・行政それぞれができる事を把握・整理する必要がある。その上で、短期的には区が主導して調整を行うが、いずれはDMOが中心となり、地域や民間事業者と連携し、地域主体の自主的な取組を継続できるよう支援していく。

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位			
事 業 名	区内循環バス運行等経費				2	
目 的	主要な駅、観光エリア、公共施設を巡る区内循環バスを運行することで、観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上している。				主管課・係（担当）	
					観光課観光担当	
					03-5608-6500	
対 象 者	区民、観光客					
根 拠 法 令 関 連 計 画						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	京成バス株式会社	
事 業 内 容	南部、北西部、北東部の3ルートを運行 運行収支の不足額及び障害者の乗車に係る運賃相当額を補助している					
経 過	開始年度	平成23年度		終了予定		
	平成23年度 区内循環バス運行事業者の決定、区内循環バスの運行開始 平成24年度 バス停留所新設2箇所（北東部ルート1箇所、南部ルート1箇所） 平成25年度 バス停留所新設1箇所（南部ルート） 平成26年度 運行ルートの一部変更に伴う新設バス停設置 平成27年度 新ルート運行開始 平成28年度 運行に係る協定延長に向けた協議 平成29年度 バス乗降調査開始 平成30年度 バス停留所新設1箇所（北西部ルート1箇所） 令和元年度 バス停留所新設1箇所（北西部ルート1箇所）及びルート変更 令和2年度 バス停留所移設1箇所（北西部ルート1箇所）					
議 会 質 問 の 状 況	平成30年1定 区内循環バスの利用客の大半が区民となっている現状について 平成31年1定 区内循環バスを利用実態に即して見直すべき 令和2年1定 区内循環バスの電気バス化について 令和2年3定 新型コロナウイルス感染症による区内循環バスへの影響について					
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)					

予算・決算額推移（千円）		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
予算現額（事業費）		95,903	111,295	98,768	97,763	144,386	140,751
A.決算額（令和3年度は見込み）		95,794	110,920	97,687	97,462	136,316	140,751
財 源	国	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
一般財源		95,794	110,920	97,687	97,462	136,316	140,751
執行率（%）		99.9%	99.7%	98.9%	99.7%	94.4%	100.0%
B.人コスト				7,875	6,990	9,704	
総事業決算額（A+B）		95,794	110,920	105,562	104,452	146,020	
主な事業費用の説明		①バス運行経費に係る補助 ②乗降データ分析サービスの利用 ③バス乗降センサーの修繕					
予算書P（令和3年度）		206		執行実績報告書P（令和2年度）		149	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	1日乗車券の年間販売枚数				単 位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2000	R7	目標	2000	2000	2000	2000
				実績	3697	3171	1530	918
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	2000	2000	2000	2000	2000	2000	
	実績	411						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光客の利用状況の推定指標となるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	1日当たりの平均乗車人数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
4500		R7	目標	4,500	4,500	4,500	4,500	
			実績	4,119	4,053	3,934	3,736	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500		
実績	2,698							
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用状況の指標であるため								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	区民の生活の足としては定着している。目標の1日平均利用者数4,500人に達するよう、引き続き利用者増に向けた取組を進めていく。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が目標に達していないため、利用者増に向けた取組を進める必要がある。 ・次期協定締結の令和4年4月に向け、バス事業全体のあり方について見直す必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度3月以降乗客数が減少傾向にある。安定した事業運営のため、収支不足額にどのように対処していくか検討する必要がある。

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位	
事 業 名	水辺空間を活用した賑わい創出事業		3	
目 的	東京都長期ビジョン(平成26年12月策定)において「世界一の都市・東京」の実現を目指す中で政策指針として掲げられている「隅田川における恒常的にぎわい創出」を推進するため、水辺空間を活用したイベント等を実施する。		主管課・係(担当)	
			観光課観光担当	
			03-5608-6500	
対 象 者	本区を訪れる観光客、区民			
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区観光振興プラン			
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤0.5人 一般社団法人墨田区観光協会等	
事 業 内 容	<p>●水辺空間を活用したイベント等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨堤さくらまつり ・吾妻橋フェスト ・納涼の夕べ ・他団体主催イベントとの相乗効果を狙ったイベント <p>※令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のためいずれも中止となった。</p>			
経 過	開始年度	平成18年度	終了予定	令和2年度
	<p>[平成18年度] 水辺のオープンカフェ開催、[平成19年度] 水辺のオープンカフェ～吾妻橋フェスト開催 [平成20年度～令和元年度] 吾妻橋フェスト開催 ※平成23年度は東日本大震災の影響、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策により中止。 [平成28年度～平成30年度] THE GREENMARKET SUMIDA開催 [令和元年度] 他団体主催イベントとの相乗効果を狙ったイベント開催 「墨堤さくらまつり」及び「納涼の夕べ」の予算を他の細目から移管 [令和2年度] 墨堤さくらまつり、吾妻橋フェスト、納涼の夕べ ※新型コロナウイルス感染症対策により中止。 [令和3年度] 吾妻橋フェスト廃止。墨堤さくらまつり及び納涼の夕べに係る経費は、観光地域づくり法人(DMO)への支援事業へ移管。</p>			
議 会 質 問 の 状 況	[令和2年・2月議会及び予特] 水辺の賑わい創出事業の見直しについて			
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)			

予算・決算額推移(千円)		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
予算現額(事業費)		22,610	21,000	20,000	21,793	2,545	0
A.決算額(令和3年度は見込み)		22,609	20,992	19,895	15,748	2,046	0
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		22,609	20,992	19,895	15,748	2,046	0
執行率(%)		100.0%	100.0%	99.5%	72.3%	80.4%	#DIV/0!
B.人コスト				4,922	4,369	7,058	
総事業決算額(A+B)		22,609	20,992	24,817	20,117	9,104	
主な事業費用の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・墨堤さくらまつりに係る仮設便所し尿(収入・運搬)の役務費 ・墨堤さくらまつり、吾妻橋フェスト、納涼の夕べに係る委託料 ・墨堤さくらまつりに係る仮設便所の賃借料 					
予算書P(令和3年度)	—	執行実績報告書P(令和2年度)			150		

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	イベントの実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		0	R2	目標	7	9	9	10
				実績	7	9	9	6
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	10	0	0	0	0	0
	実績	0	0	0	0	0	0	
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	水辺の賑わいを創出するイベントの実施回数とした。 ※令和3年度から、吾妻橋フェストを廃止、墨堤さくらまつり及び納涼の夕べに係る経費は観光地域づくり法人(DMO)への支援事業へ移管したため、目標値を取消した。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	イベントの来場者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
0		R2	目標	44,000	65,000	65,000	68,000	
			実績	44,000	69,000	51,500	186,180	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		195,000	0	0	0	0	0	
実績	0	0	0	0	0	0		
指標の選定理由及び目標値の理由								
イベントの実施により、多くの観光客を誘致し、水辺の賑わいを創出することを目的としているため、イベントの来場者数を設定した。※令和3年度から、吾妻橋フェストを廃止、墨堤さくらまつり及び納涼の夕べに係る経費は観光地域づくり法人(DMO)への支援事業へ移管したため、目標値を取消した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
統合や縮小を検討	区主催によるイベントを実施してきたが、事業継続性の観点から、区費負担によるイベント実施を見直し、観光地域づくり法人(DMO)への支援事業へ移管した。今後、区は地域主体のイベント等を支援することで、水辺空間を活用した恒常的な賑わいの創出に取り組んでいく。

課題・問題点
<p>地域主体のイベントの情報発信が一元化されていないため、地域イベントと連携を図り、情報発信方法を検討していく必要がある。</p> <p>また、恒常的に賑わいが創出できるよう、舟運事業者との連携や効率的かつ効果的な実施運営方法等についても検討していく必要がある。</p>

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事 業 名	小梅橋船着場管理等事業		4
目 的	小梅橋船着場(以下「本船着場」という。)は、防災船着場としての機能に加え、観光舟運の機能も期待されていることから、観光舟運事業の展開促進を目指し、民間事業者とも連携しながら本船着場の管理運営を行い、持続的な観光振興につなげていく。		主管課・係(担当)
			観光課観光担当
			03-5608-6500
対 象 者	本区を訪れる観光客、区民		
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区観光振興プラン		
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営 人員体制・委託先 常勤0.5人
事 業 内 容	<p>●社会実験の実施(令和3年3月1日から令和4年3月31日まで) 本船着場を活用した社会実験を実施し、①観光舟運活性化に資する新たな管理運営方法、②舟運事業者の需要調査、③利用者の需要調査について検証・検討を進める。</p> <p>●東武鉄道株式会社との協定に基づく協議 東武鉄道株式会社と連携し、本船着場を含めた北十間川周辺エリア全体の一体的な賑わい創出と、効率的かつ効果的な運営手法の検討を進める。</p>		
経 過	開始年度	令和2年度	終了予定
	<p>[令和2年度] 東武鉄道株式会社との協議(計5回)、社会実験開始(令和3年3月1日から令和4年3月31日まで)</p> <p>[令和3年度] 東武鉄道株式会社との協定に基づく協議(定例会開催)</p>		
議 会 質 問 の 状 況	[令和2年11月議会・決特] 小梅橋船着場の今後の活用について		
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)		

予算・決算額推移(千円)		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
予算現額(事業費)		0	0	0	0	900	3,080
A.決算額(令和3年度は見込み)		0	0	0	0	0	3,080
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	0	0	0	0	3,080
執行率(%)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0.0%	100.0%
B.人コスト						3,529	
総事業決算額(A+B)		0	0	0	0	3,529	
主な事業費用の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・本船着場の管理運営に係る需用費(消耗品費)及び委託料 ・本船着場緊急清掃対応に係る役務費 					
予算書P(令和3年度)	205	執行実績報告書P(令和2年度)		150			

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	運航便数				単 位	本
		最終目標値	目標年度		H28	H29	H30	R 1
		240	R7	目標				
				実績				
			基準年 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	20	240	240	240	240	240
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>本船着場を利用する船の運航便数とし、240本(月間20本×12月)を目標値とする。 ※令和2年度3月1日から社会実験を開始したため、基準年を令和2年度とする。 また、令和2年度目標値は3月分(20本)のみとする。</p>							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	乗下船人数				単 位	人
最終目標値		目標年度		H28	H29	H30	R 1	
0		R7	目標					
			実績					
		基準年 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標	400	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	
	実績		0	0	0	0	0	
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>本船着場を利用する船の乗下船人数とし、4,800人(1日20人×月間20本×12月)を目標値とする。 ※令和2年度3月1日から社会実験を開始したため、基準年を令和2年度とする。 また、令和2年度目標値は3月分(400人)のみとする。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	社会実験を実施する中で、①定期的な舟運運航の可能性、②本船着場運営方法、③舟運事業と水上イベントの連携方法を検証していく。引き続き、民間事業者と連携し、本船着場を含めた北十間川周辺エリア全体の一体的な賑わい創出と、効率的かつ効果的な運営手法の検討を進める。

課題・問題点
<p>●社会実験を実施しているところであるが、新型コロナウイルス感染症対策に伴う緊急事態宣言の影響もあり、現状、本船着場を利用する舟運事業者は少なく、需要量調査が困難な状況である。コロナ収束を見据えながら、隅田公園そよ風ひろばを中心に北十間川周辺エリアで実施されるイベント等との連携方法を検証していく。</p> <p>●本船着場の管理運営方法について検証しつつ、今後の事業スキームのあり方を検討していく必要がある。</p>

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	地域連携区内回遊促進イベントの実施				5	
目 的	地域団体や区内企業等と連携し、行政・地域・民間が一体的になって地域を盛り上げるイベント実施することにより、東京スカイツリーを訪れる観光客等の区内回遊を促すとともに、観光客を受け入れる地域のおもてなしの心を醸成する。				主管課・係（担当）	
					観光課観光担当	
					03-5608-6500	
対 象 者	東京スカイツリーをはじめ、墨田区を訪れる観光客					
根 拠 法 令 関 連 計 画	墨田区観光振興プラン					
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤0.5人	
事 業 内 容	<p>■ご当地キャラクターフェスティバルの実施 年1回 大横川親水公園や東京スカイツリータウン(R)1階ソラマチひろば、東京スカイツリー周辺の浅草通り等を会場に、両日合わせて約100体のキャラクターが集結し、キャラクターステージやご当地キャラブース、地元町会等による模擬店のほか、各会場を巡るスタンプラリーや缶バッヂラリーなどを実施。 ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止</p>					
経 過	開始年度	平成25年度	終了予定	令和3年度		
	例年5月に実施していたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて秋開催を検討していたが、収束の見通しが立たないため中止することとした。					
議 会 質 問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)					

予算・決算額推移（千円）		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
予算現額（事業費）		9,153	9,153	9,000	8,936	5,000	5,000	
A.決算額（令和3年度は見込み）		9,153	9,153	9,000	6,760	810	0	
財 源	国							
	都							
	その他							
一般財源		9,153	9,153	9,000	6,760	810	0	
執行率（%）		100.0%	100.0%	100.0%	75.6%	16.2%	0.0%	
B.人コスト				4,922	4,369	7,058		
総事業決算額（A+B）		9,153	9,153	13,922	11,129	7,868		
主な事業費用の説明		大横川親水公園会場の実施に伴う委託料						
予算書P（令和3年度）		205		執行実績報告書P（令和2年度）		150		

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	イベント来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		176000	R3	目標	185000	172000	172500	173000
				実績	182500	172000	177000	177000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	173500	174000					
	実績	0	0					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光資源を連携させたイベントを実施することで、観光客等に対して、区内回遊を促す効果が期待させるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	スタンプラリーに参加した区内回遊者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
6900		R3	目標	6,500	6,500	6,550	6,600	
			実績	6,500	6,538	6,252	3,317	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	3,100	3,150						
実績	0	0						
指標の選定理由及び目標値の理由								
イベント実施による直接的な成果指標であるため。 ※令和2年度まで実施していた「東京スカイツリータウン内のひろばを活用した回遊促進イベント」は令和2年度以降の実施予定なしのため、目標値をキャラクターフェスティバルに合わせて設定変更。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
廃止を検討	東京オリンピック・パラリンピック競技大会までの観光施策事業であるため、大会が実施される令和3年度をもって終了。 今後は、事業継続性の観点から区費負担によるイベント実施を見直し、地域との協働・支援を行うなど、継続的に賑わい創出に向けた取り組みが行えるよう、事業の実施方法を見直していく必要がある。

課題・問題点
地域や民間企業との連携強化を図り、恒常的に区内回遊が促進される仕組みづくりを進めていく必要がある。